

RYUKA国際特許事務所

特許を通じた相互理解
新たなビジョンを創造せよ

CORPORATE DATA

RYUKA国際特許事務所

〒163-1105 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー5F
TEL 03-5339-6800 FAX 03-5339-7790
http://www.ryuka.com

PROFILE

龍華 明裕(リュウカ アキヒロ)

●RYUKA国際特許事務所 所長 弁理士
●学生時代、20歳にして学生塾を経営する。その後、「キヤノン」での勤務を経て、弁理士の資格を取得。アメリカの特許事務所にて経験を積み、帰国後「RYUKA国際特許事務所」を設立した。



辺見 まずは龍華所長が、この弁理士という仕事を歩まれたきっかけから聞かせて下さい。

龍華 私が最初に技術者として入社した「キヤノン」では、各技術者が年間6件程の特許出願を行い、技術開発へ精力的に取り組んでいました。そこで特許の重要性と、面白さを知り、弁理士を目指そうと考えたのが始まりです。その際、弁理士が本当に社会に対して価値を創造できるかを調べました。

産業は人の想いによって発達するものです。その人々の想いの中で最も強いものというのと、それは「人を理解したい」「人に理解されたい」という想いではないでしょうか。でも、「特許は独占権で、むしろ人を排除するものではないのか」と、一時そこに懐疑的になったんです。でもよく調べていくうちに、特許は人のコミュニケーションを促進することを知りました。発明した人に権利を与えることで、その技術を使用する際はその人と協力する必要が生じます。独占権により生み出される協力関係はたくさんあり、だからこそ1つの製品を生み出すために数百もの企業の技術が使われることがあるのです。その面白さに気付いたことで、迷わず弁理士を目指し、歩み始めました。

辺見 そこまで深く考えての決断だったんですね。

龍華 それは経営者としてはとても大切な部分だと思います。自分の仕事の社会的な価値に少しでも疑問があれば、全力で前に進む事はできませんからね。その後は特許事務所に就職して資格を取得し、その後にアメリカの特許事務所に2年9ヶ月

勤め、最新の知識やアメリカに於けるビジネスの考え方を学び、帰国してRYUKA国際特許事務所を設立しました。

辺見 設立当初はいかがでしたか。

龍華 最初は、「20名ほどの事務所の後輩と楽しく仕事を」という程度のイメージしかもっていませんでした。ところが、想像以上に多くの依頼が舞い込み、想定を超えた人数のスタッフを雇うことになりました。でも、自分に大きなビジョンが無かったものですから、日々の仕事に追われる一方で、組織力が弱く、所員の意識がばらばらになってしまっただけです。実務能力を育てるだけ、所員の方向性を合わせる事ができると考えていたのですから、あまりにも甘かった。そこで、その失敗経験を逆に成功へのきっかけにしようと、そこから3年間は仕事をセーブし、マネジメントの勉強を始めました。そして、退職者がでなくなったことを契機に、2006年5月に事務所を移転拡張し、また攻めていこうと決心したんです。



辺見 自ら勉強を繰り返す、龍華所長は本当に努力家ですね。今はどのようなことを心掛けて働いていらっしゃるのですか。

GUEST COMMENT

辺見 マリ
歌手

将来のビジョンに向けて、絶えず自らの向上を図る龍華所長の姿勢からは、学ばせて頂くことが多くありました。自分自身、そして弁理士という仕事のあり方についてまで、細かく思いを巡らせていらっしゃるからこそ、常に自分に厳しく、ビジョンを追及して行けるのでしょうね。

がどのようにお役に立てるのか。いつも自分の中にビジョンを作る事に自由であれと、それを一番大切にしています。

辺見 なるほど。それは私も見習いたいです。でも、そこまでビジョンを見る事ができるのは、龍華所長が自分に厳しいからなのでしょう。自分に甘く生きていけば、明確なビジョンなんて持つことができませんからね。では、最後にRYUKA特許事務所として、今後のビジョンを聞かせて頂けますか。

龍華 外国から日本への特許の全出願の5パーセント以上を当事務所で行っています。それが達成できれば、外国からの出願数で国内TOP8に入ります。そのため最大の課題は「説明」に於ける外国人とのコミュニケーションギャップなんです。例えば、米国のプロフェッショナルは、クライアントがベストではない選択をすれば、それは100パーセント自分達の説明責任の問題と捉えます。そして、私達にも同じスタンスを要求します。そこで、私達にも同じようにガイダンスに注力することで顧客の信頼を確立し、そのスタイルを当事務所のブランドとしてクライアントに伝えていきます。

辺見 今はまさに龍華所長の真価が問われる飛躍の時、最も大切な時期だと思います。応援していますので、これからもがんばって下さい。